

タイトル:平成 29(2017)年度 研究セミナー(第 18 回)

日程:平成 29 年 12 月 16 日(土)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「内戦後のリビアにおける国家建設の停滞:対立構造と諸アクターの分析」

小林 周(日本エネルギー経済研究所 中東研究センター)

報告者は、2013 年秋に開催された中東☆イスラーム教育セミナーにて、計画段階であった博士課程における研究の要素について発表した。それから 4 年がたち、博士論文が完成間近となった段階で、同研究セミナーへ参加する機会を得た。

今回の研究セミナーでは、博士論文の 1 章分に加筆修正を加える形で、「内戦後のリビアにおける国家建設の停滞:対立構造と諸アクターの分析」と題した発表を行った。発表では、内戦後のリビアでなぜ国家建設が進まなかったのか、国家建設が停滞する中で何が起きたのかを、新政権における政治対立、社会的亀裂の拡大、非国家武装主体の台頭という 3 つの観点から検討した。

報告者の研究はリビアの現代政治、特に 2011 年の内戦以降の政治・治安情勢という現在進行形の事象を扱っており、資料収集や現地調査、先行研究の蓄積などに多くの限界があるトピックである。そのため、自身の研究内容が学術的に十分深められているかという点については不安もあったが、先生方に建設的なコメントを頂き、大いに勇気付けられた。一方で、「リビア内戦は本当に『終わった』のか？」といった本質的なご質問や、研究の枠組みや言葉の定義に関する厳しいご指摘も頂き、今後にもむけた多くの課題も得ることができた。

また、教育セミナーの際にも感じたことであるが、他の受講生の方々の研究発表も、内容が勉強になるだけでなく、研究の枠組みや手法など、自分の研究を向上させるための多くのヒントにあふれていた。中東やイスラームに関する研究という点では重なりつつ、専攻や研究対象が異なる若手研究者の方々と交流ができることも、本セミナーの極めて有意義な点であることを実感した。講師や司会を務めて下さった先生方、受講生の方々、そしてセミナーの運営に関わって下さった全ての方に、心より御礼を申し上げます。